



# 64 回生学年だより「WITH」

～ 共に学び、共に支えあい、共に感動する学年 ～

10月行事が盛りだくさんで、64回生は行事ごとに成長し、楽しい思い出を作っています。音楽コンクールや学年合唱では、音程や強弱、息継ぎ、ハーモニーなどを意識しながら、3年生らしい素敵な歌を歌うことができました。

文化祭では、美工部が個性豊かな個人作品と、協力して作り上げた壮大な作品を披露し、見る人を惹きつけていました。放送部は、工夫を凝らした映像とアナウンスで楽しませてくれました。吹奏楽部は、楽しく心躍る演奏で会場を一つにしてくれました。そして、生徒会劇は3つの「想」をテーマに、笑いもありながらも考えさせられる舞台でした。生徒が授業の中で作った作品にもそれぞれの工夫や努力を見ることができました。

## 生徒作文「音楽コンクールを終えて」

### 『優勝よりも大切なもの』

「先生、僕が指揮をやります！」と言って始まった音楽コンクールの練習。その時の僕は「指揮なんて簡単でしょ」と思っていた。だが、すぐに後悔することになった。8月の初め、指揮の練習をしに夏休み中に学校に行った。「練習始めていこーか」と言われ、言われたことをやろうとしていた。だが、手が全く言うことをきかず、先生に言われた簡単なことができなかったのだ。その日は音楽に合わせて、手でリズムをとるだけで終わった。その日の夜は、とても悔しかった。自分から「やります」と言っておいて、あの様だったと考えると嫌になる。僕は、1年生と2年生の時に音楽コンクールで優勝していたのだ。だからこそ、3年生でも優勝したら、3年連続優勝になるので、誰より「優勝」という漢字二文字が欲しかった。そこで次の日から指揮の猛練習が始まった。すると、毎日練習を重ねていくごとに上手くなり、自分のしたかった指揮もできるようになっていった。だが僕には、もう1つ問題があったのだ。僕は人前で何かすることを苦手としていたのだ。家では、前に誰もいなかったのが自由に指揮をしていた。学校でみんなの前でやるとなった時、僕の心の中では「おとなしくやるか」「いつも通りにやるか」の迷いがあった。そこで僕は、殻を破りいつも通りにしたのだ。そうしたら、先生から「いいね」と言われ、今までの自分から変わったような気がした。この時僕は、「僕がこのクラスを優勝に導くんだ」と強く心に決めた。

本番は自分のやりたい指揮もでき、「楽しかった」と思うことができた。結果でいうと優勝できなかったが、クラスの歌のペースを作ることができ、自分の成長もあったので、「優勝」よりも大切なものを見つけたような気がした。このクラスでの思い出を忘れないように心に刻んでおこうと思った。

2組



### 『最後の音楽コンクール』

私は中学校生活最後の音楽コンクールに向けてクラスのみんなと一生懸命頑張ってきました。初めの方は、みんななかなか声も出ず、各パートがあまりそろわなかったし、みんなの気持ちが1つになれなくて、「優勝できるかな」という不安の気持ちでいっぱいでした。先生に注意されたこともたくさんあったし、どれだけ練習しても上手いかなかったこともたくさんありました。私自身も思っているようにできなかったことがたくさんあって「本番ちゃんとできるかな」ととても不安になったこともいっぱいありました。だけど、クラスのみんなと協力して、諦めることなく心を1つに最後まで練習し続けました。練習を重ねていくうちに日に日に上達していききました。

そして、緊張の本番。3組からスタートだったのでとても緊張しました。さらに保護者の方がたくさん来られていたので指揮台に上がった瞬間、足の震えが止まらなくなり、力を抜いたら崩れ落ちそうでした。けれど、クラスみんなの顔を見たら、「よし、がんばろう！」という気持ちになれました。本番のみんなの歌声にはとても感動しました。誰一人欠けず歌っている姿を見て、最後の音楽コンクールのクラスが3組で良かったと感じました。そして、優勝ができてとても嬉しかったです。この結果になれたのも担任の先生が最後まで一生懸命指導してくれたからだと思っています。

この3組の明るさと団結力をいかして体育会も全力で楽しみたいと思います。

3組

### 『音楽コンクールを終えて』

中学校最後の音楽コンクールは悔いなく終わることができました。1年や2年の時は、もう少しすればよかったなと反省点がありました。今回は負けてしまったけど、自分のMAXを出せてよかったなと思いました。私は去年まで歌っているときの顔が暗くなっていると親に言われていました。今年の練習のときも先生に言われて、「やっぱりか」と思い、その後の練習からは頑張る表情を意識しました。音程を意識していると顔が暗くなってしまうけど、今年は表情も意識して頑張りました。そのおかげで本番では、いつもより良い表情で歌うことができました。だから、親にも褒められて頑張るよかったなと思いました。

私は最初、「顔が暗くなるのは、つられないようにしているんだからしょうがない」と思っていました。でもやっぱり良い音楽コンクールにしたいと、歌うだけじゃなくて全てを頑張ろうと思いい、頑張ったら成果が出ました。何でも頑張ってみるものだなと思いました。

私は音楽コンクールで皆と息を合わせることの難しさ、協力することの楽しさ、努力は報われる、この3つを主に学んだなと思いました。色々なことがあって嫌なことたまにあったけれど、一生懸命頑張れたのでよかったかなと思いました。

4組

### 『全力の音楽コンクール』

クラス合唱で、私は伴奏に挑戦しました。去年初めて伴奏をしたときに感じた、友達の歌声と

指揮に自分のピアノが加わって1つの曲になる楽しさをもう一度経験してみたかったので、今年もさせてもらうことができ、とても嬉しかったです。ですが、今回の音コンは今までと比べて変わったところがありました。それは全クラスが同じ課題曲を歌うことです。全クラスが同じ曲を合唱するという事は、それぞれのクラスの違いがよく分かるので、点数がつけやすくなります。他クラスとの差をつけるには、強弱や一体感が必要になってきます。それをクラス全員で表現することがとても難しかったです。夏休み前から伴奏の練習に取り組み、音コンの一カ月前からクラスでの練習が始まりました。最初は指揮と伴奏が合わなかったり、合唱の声が出なかったり、たくさん苦労はありましたが、クラスメイトも最後の音楽コンクールを成功させたいという思いで、数少ない練習を一生懸命に取り組みました。

本番当日、どのクラスも予行練習のときよりも格段にレベルアップしており、本気を感じました。伴奏という大役だったので、とてつもなく緊張しましたが、今までの練習の成果を存分に発揮できるようクラスメイトと息を合わせて合唱することができました。今回は審査員をして評価する側もしましたが、どのクラスもレベルが高い合唱で順位をつけることが本当に難しかったです。残念ながら優勝は逃してしまいましたが、クラス全員が全力を出せた合唱ができたので、悔いはありません。これから、残り少ない行事も全力で取り組むことを目標にクラス一丸となり、頑張っていきたいです。

1組

## 生徒作文「文化祭を終えて」

### 『文化祭がすごく楽しかった』

私は放送部として、一生懸命準備に取り組んできた文化祭がすごく楽しみでした。練習をたくさんしてきたのでそれをたくさんの人に見せたかったのです。そして文化祭では父、母の他に祖父、祖母も来てくれると母から伝えられたから、より楽しみでした。本番ではいつもの練習のおかげで失敗せずにやり切ることが出来て嬉しかったです。だけど、楽しかったからこそすぐに終わってしまい、少し寂しいと感じました。

学年合唱では、1組から4組の3年生全体で歌を歌うので、より歌の深みが増すのだろうなとワクワクしていました。ソプラノパート以外が歌うところを聴いているといろいろな人の声が重なってすごくきれいで感動しました。

文化部の出し物は全てもう一度見たい、聴きたいと思うほど迫力があって、おもしろかったです。生徒会の劇では、オリジナリティがあり、「想像する」という大切さも改めて学ぶことができました。文化祭の予行練習とは違って、ドラえもんが全身タイツを履いて出てきたのがすごくおもしろかったです。吹奏楽部の演奏は迫力がすごく「もっと聴きたかった」と思いました。合奏でもソロのパートでも、終わった後に観客が大きな拍手を送っていてみんなの心が繋がった感じがしました。

文化祭が終わって何か大きなことをする時は練習や準備が大変だけど、頑張ってきた分、すごく楽しい一日になって素敵な思い出が増えるのだと思いました。

放送部



### 『文化祭を終えて』

今年の文化祭は3年生にとって最後というのもあって思い出に残りました。展示鑑賞、学年合唱、舞台など三部のもので構成されていました。

まず、展示鑑賞。どの展示もみんな上手にできていて少し気落ちをしました。自分は美工部で部活の作品があり、こちらもみんな上手にできていました。他の分野の作品も、他のみんなの作品の方がよく思えました。しかし、ただ気落ちをしたわけではなく、他の人の作品を見ていいなと思ったところは次へとつなげられるよう覚えることにしました。

次に学年合唱です。学年合唱では歌った後、気持ちがすっきりしていました。自分は人前に出るのは緊張してしまい、気分がすぐれないのですが、思ったより気持ちよく歌うことができてよかったです。思うところとしては、自分自身あまり声を出せていなかったように感じるころです。自分はあまりリズムとかが分からず、それが恥ずかしく感じて出せていなかったのです。その恥じらいさえなければと思います。

最後に、舞台鑑賞です。舞台鑑賞の中で自分が一番楽しみにしていたのは吹奏楽部の演奏です。毎年、何の曲が流れるのか楽しみにして待っていました。今年も自分が楽しめる曲が流れてきて嬉しかったです。

最後の文化祭ということもあって、期待していましたが、思った通り楽しめる行事だったのでよかったです。学年合唱は心残りでしたが、展示鑑賞や舞台などで楽しめて、印象に残ったになりました。

美工部



### 『中学最後の文化祭』

今年の文化祭は昨年までの2回より楽しく、良い合唱、良い演奏、良い思い出になったと思う。

学年合唱では、クラス合唱と違ってほとんど練習できていなかったけど、本番では64回生全員の想いがひとつになったという感じで気持ちよく楽しく歌うことができた。これから歌うのは卒業式ぐらいだと思うのでとても寂しいけれど、文化祭での最後の学年合唱で良い合唱を届けられて良かった。

展示では、美術の自画像や国語の作品などを通してこれまでの感謝や思い出、これからの不安や期待と向き合い、それを伝えられるように一生懸命制作に取り組んだ。1、2年生の作品は、見ていてクスッとなるようなものもあればジーンとくるようなものもあり、とてもおもしろかった。部活の後輩の一人が「トランペットの3年生の先輩へ」という手紙を書いてくれていて、今までの先輩としての部活動での取り組みは間違っていなかったんだなと思うことができ、泣きそうになる程嬉しかった。

吹奏楽部での最後の演奏は、練習の成果を出すことができ、疲れよりも楽しさと感動が残る最高の演奏になったと思う。後輩や先生には迷惑をかけたこともあると思うけど、3年生ステージやソロなどを中心に3年生の意見や希望を優先してもらったり、練習に付き合ってもらったりして、とても感謝している。本番では、ミスはあっても気持ちが少しでも観客や仲間の皆に伝わっていただければいいと思う。12月に引退式があるので、そこで言葉で感謝の気持ちを伝えられるようにしたい。

今年の文化祭は、出演も鑑賞も楽しく、最高の思い出になった。これからの短い中学校生活で、



文化祭を通して改めて感じた感謝を伝えていきたい。

吹奏楽部



### 『最後の文化祭に込めた想い』

最後の文化祭。3年間、放送部として、文化祭や日々の当番を頑張ってきた。最後の文化祭は、私たちが去年からやりたいと言っていた「EBS ニュース」だ。1学期から準備が始まり、夏休みや9月もほとんど休みなく練習を重ねた。部員全員がそろそろことが少なかったため、準備にも時間がかかったが、最後の文化祭を良いものにしたいという気持ちはみんな同じだった。私は、生徒会にも所属しているため、劇の練習で部活動を途中で抜けることもあったが、来ている人がどんどん作業をしてきていた。リハーサルの日は初めて部員以外の人に見てもらうので緊張した。それと同時に改善点も見られた。その改善点を部員で共有し、本番では、一番いいものを見せることができたと思う。観客のリアクションも良く、放送部の文化祭は成功したと思った。

生徒会劇では、念願の主演をすることができた。セリフの量も多く、覚えることに時間がかかったが、午後の部は午前の部以上のものを見せることができたと思った。

学年合唱では、ステージに立って、学年全員で「手紙」を歌った。この学年のメンバーで歌うのは卒業式がラストで、歌を他の学年の人に届けるのはこの文化祭が最後だった。数少ない練習の時間で、クラス合唱の練習を生かして、歌詞に想いを込めて歌った。最後の文化祭で歌う曲が「手紙」で良かったと思う。

最後の文化祭、午後の部は、見ている人も私たちも本当に最後の舞台上、放送部では伝わるようにはっきりと、生徒会劇では1つ1つのセリフに感情を込めて、合唱では授業で教えてもらったポイントも意識しながら、歌詞の1つ1つに未来の自分への想いを込めて歌うことができた。3年間で一番いい文化祭になったと思う。

生徒会・放送部

